



全96.2kmを走り抜いた広島町駅伝チーム

選手の力走、タスキをつなぐ



タスキをつなぐ渡辺選手と小野選手

晩秋の福島路を縦断する第21回市町村対抗県縦断駅伝（ふくしま駅伝）が15日、白河市・福島市の96.2kmで開かれました。広島町は選手全員が力走しタスキをつなぎました。

大会は午前7時40分に白河市総合運動公園陸上競技場をスタートし、51市町村、816人が福島市までの16区間をタスキをつなぎ、沿道には大勢の人が詰めかけ、選手に大きな声援が送られました。

大会に先立ち行われた開会式では、広島町の斉藤信幸監督兼選手に20年連続出場賞が授与され、片平俊夫福島陸協会長から賞状と記念の盾が手渡されました。斉藤監督は第2回大会から連続出場している選手として最年長です。

20回連続出場賞を受賞

斉藤 信幸 監督兼選手

斉藤監督は中学時代もともと野球部。走ることが得意で短距離・長距離ともに速かった。高校では陸上部にスカウトされ、2年生時には毎年京都で開催される全国高等学校駅伝競走大会の第30回記念大会に福島県代表として出場。都大路の4区を走りぬけた経験の持ち主。この経験を知っている知人に薦められ福島駅伝に参加したのがきっかけ。だいぶ立場も環境も変わったと振り返る。

「選手として出場していたころは、メンバーに入るのに必死だった。今が楽だということは決まっていなかったが、第2回大会では区間賞をとった選手が広島町にもいた。参加市町村も90くらいあって、しのぎを削っていた。

監督を兼務するようになると全体をまとめる立場として選手起用にとっても苦労した。

若い選手には走ることを続けてほしい。高校に進学してから陸上部に入門したいという選手もいます。これも福島駅伝の影響です。駅伝は世代を超えた交流、いい意味での社会教育になります。若い指導者も育っている。走ることが継続できる環境づくりが大切。選手は皆、走ることが大好きで汗をかくことが気持ちいい。

最後に、町民の皆さんには熱い声援ありがとうございました。」

と、これまでの歴史を振りかえった。



県中学選抜剣道大会

広野中学校 剣道部

男子 **初優勝**

女子 **第3位**



優勝を果たした男子剣道部

第25回県中学校選抜剣道大会が14日、大熊町総合体育館で開催され、広野中学校剣道部が初優勝、相双勢では初優勝という成績をおさめました。また、広野中学校女子剣道部は3位入賞の成績でした。個人の男子では、遠藤太郎選手が頂点に立ちました。

男子剣道部キャプテン遠藤尚己選手は大会を振り返りかえって「優勝に対してあまり実感はありません。このチームは個性が強いです。今後はよりいっそう一致団結して練習に取り組むチームにしていきたいです。」と気持ち次へ切り替わっています。



3位的女子剣道部

女子剣道部キャプテン岡田香織選手は3位入賞について「県大会前に練習で選手同士がぶつかりあいました。それから話し合いができるチームとなり、逆にチーム力が高まったように感じます。今は、自分たちが気づいたことを言い合って改善できる様になりました。今回の3位という結果は支えてくれた人たちのおかげでもあるので感謝したいです。中体連では優勝したいです。」と笑顔で抱負を語っていました。

「優勝と3位入賞ができたポイントには保護者の皆さん、スポ少の指導者、選手を支えてくださったすべての皆さんのおかげです。選手たちは中学生になってから、いきなりすぐ強くなったわけではありません。小さいころからの積み重ねが今回の優勝という結果に結びつきました。今後はもっと強いチームと対戦して、全国のレベルを体感させてあげたい。」と顧問の久保田先生。広野町に根づく剣道文化の土壌があったからこそその結果を実感しているようでした。

選手たちは来年の中体連に向けて気持ちを切り替え、練習に励んでいました。

個人戦優勝の遠藤太郎選手



優勝できた最大の理由は

チームメイトみんなの応援によって自分の気持ちが相手の気持ちを上回ることができたことです。相手は県内でも有名な実力者。すごく強い相手。そんな相手にも気持ちで負けなかったです。

今後はどういった選手になりたいですか

どんな相手にも全力で立ち向かえる選手になりたいです。

遠藤選手にとって剣道とは

武道なので礼儀作法や言葉づかい、靴をそろえるなど生活の部分が試合や練習に影響を与えます。生活がきちっとしていないと剣道は負けてしまいます。剣道は何事にもつながっているのだと思います。